

懐かしい旅 その 8

”東西文明の交差点、トルコ中西部を訪ねて”

ハイキング散策の会 渡邊 美穂子 S40文

今回の旅程は

イスタンブール⇒イズミール⇒クシャダス⇒パムッカレ⇒カシュ⇒アンタルヤ⇒コンヤ⇒カッパドキア⇒カイセリ⇒イスタンブール

今まで辺境、秘境の地を旅して主に自然を楽しんできましたが、今回はエーゲ文明、ヘレニズム文明、ローマ帝国、ビザンチン帝国、オスマントルコ帝国など歴史的に様々な文明の香り高いトルコを2008年5月9日から20日まで17名の仲間で旅しました。



イスタンブールからイズミルへエーゲ海に沿って移動

エフェソス

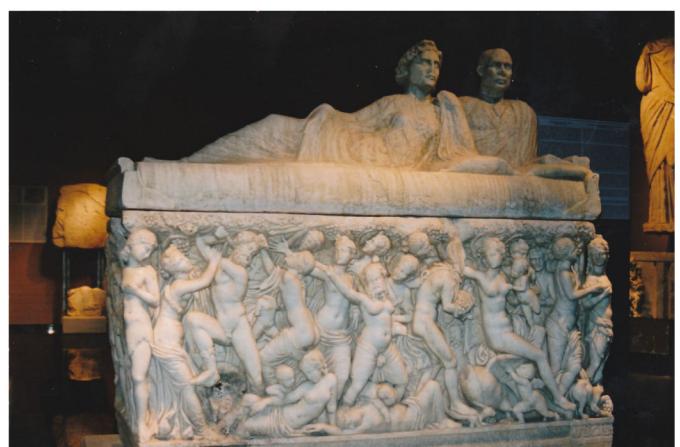
世界七不思議のひとつであるアルテミス神殿、聖母マリアの家、世界三大図書館に数えられるセルシウス（ケルスス）図書館など、ヘレニズム時代・ローマ帝国時代・初期キリスト教時代の貴重な遺跡を数多く見ることができます。



セルシウス図書館



野外劇場



エフェソス古代博物館

ここに紀元前7000年ころ作られた
アルテミス女神像がある



コンヤ（シルクロードの中継点）にある
「キャラバンサライ」（隊商宿）



パムッカレの石灰棚
山肌を流れ落ちる運船が長い年月を
経て作り出した真っ白い棚田

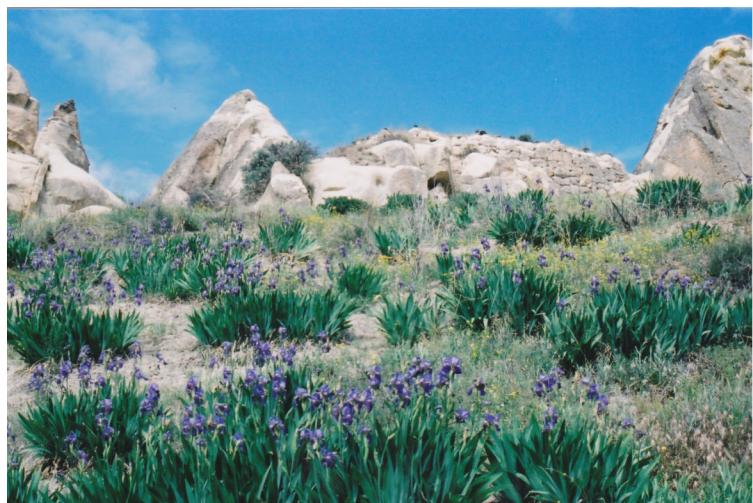
カッパドキア

カッパドキアはトルコ東部の標高1000mのアナトリア高原地域にあり、この一帯は火山灰土壌が固まって出来た凝灰岩が露出し、長期にわたる侵食や風化を受けて奇岩を形成し”妖精の煙突”と呼ばれる多様な奇岩が見られる。



カッパドキアは紀元前15～12世紀はヒッタイト王国の中心であった。

4世紀になると初期のキリスト教徒たちは迫害や弾圧を逃れこの地へ隠れ住み岩窟教会や地下8階もの地下都市を作りその数250にもなると言う。



1985年”ギョレメ国立公園およびカッパドキア岩石遺跡群”として世界でも珍しい自然遺産と文化遺産の両方の条件を満たす世界複合遺産として登録されました。





遺跡に野生の花がアクセントに

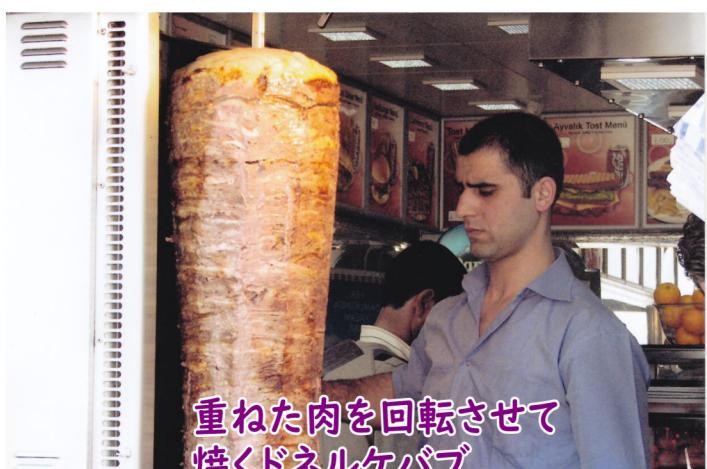
アヘンをとるケシの花



トルコ料理は世界3大料理の一つ
日本人の味覚に合っている



トレッキング中に見つけた野生の
アスパラガス。採取してお店で
調理してもらったら美味しかった



重ねた肉を回転させて
焼くドネルケバブ



世界一美しいモスクといわれる
スルタンアフメットモスク
通称ブルーモスク



ボスポラス海峡 クルージング



2008.05.18



ボスポラス海峡 ヨーロッパ側に沈む夕日

毎日のようにハイキングで訪れた古代遺跡、遺跡に咲く真っ赤なケシの花、カッパドキアの地下都市や洞窟教会、古の賑わいに想いを馳せたキャラバンサライ（隊商宿）、イスタンブールのブルーモスク、アヤソフィア、トプカピ宮殿、アジアとヨーロッパを隔てるボスポラス海峡のクルージングで見たヨーロッパ側に沈む夕日、そして世界三大料理の一つであるトルコ料理などどれも素晴らしい生涯思い出に残る旅となりました。

この旅は会報No. 60（2008年10月1日発行）に“東西文明の交差点
トルコ中西部観て歩記”として掲載されています。